

令和2年1月15日

令和元年度第2回総合教育会議 会議録

長岡市

1 日 時 令和2年1月15日(水曜日)

午前10時30分から正午まで

2 場 所 アオーレ長岡 第二応接室

3 出席者

市長 磯田 達伸

教育長 金澤 俊道 教育委員 鷺尾 達雄 教育委員 青柳 由美子

教育委員 大久保 真紀 教育委員 荒木 正

4 職務のため出席した者

教育部長 小池 隆宏 子ども未来部長 波多 文子

教育総務課長 曾根 徹 学校教育課長 中山 玄

子ども家庭課長 田中 剛 学校教育課主幹兼管理指導主事 丸山 巧

学校教育課主幹兼管理指導主事 高橋 和久

学校教育課企画推進係長兼指導主事 小嶋 修

学校教育課学校支援係長兼指導主事 斎藤 豊

学校教育課指導主事 佐々木 潤 学校教育課主査兼指導主事 兒玉 かおる

教育センター教育研究室長兼指導主事 小岸 正樹

教育センター教育研究室指導主事 矢野 武志

教育センター教育研究室指導主事 斎藤 伸夫

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 安達 紀子 教育総務課長補佐 植村 裕

6 会議の経過

(小池教育部長) 令和元年度第2回長岡市総合教育会議を開催する。まず、会議を主催する磯田市長から挨拶をお願いしたい。

(磯田市長) 第1回総合教育会議で色々なご意見をいただいたので、本日の第2回総合教育会議で教育大綱をまとめていきたい。議事に入る前に、私の思いを申し上げる。時代の風潮、社会の在り方がずいぶん変わってきたと感じている。特に国の官僚のふるまいが大きく変わってきたと感じる。明治以降、国の官僚は世のため人のために、自分のことよりも社会のためという考えで働いてきたが、ここ数年、その考えが少し変わってきたのではないか。世のため人のためというよりも、自分のためという動機が見え隠れする。最高に知力があり、努力する力のある人間が、本当に国のため社会のために働いているのか。この問題の根幹には教育の問題があるのではないか。今回の教育大綱には「他人の幸せを考え、世のため人のために行動できる子どもを育てる」という基本理念の趣旨をしっかりと書かせていただいた。そういうものを踏まえて、長岡の教育はこうしていきましょうということを皆さんと意思統一したい。子どもたちの思いの実現は基本だが、自立して、世のため人のためと思っていくような人間が、米百俵、河井継之助、小林寅三郎などの精神性、つまり長岡が持っている精神性に繋がるものだと思う。自分のためもそうだが、世のため人のため、利他的な精神をどのように育てていくかということが大切だと思う。これらのことを踏まえて、大綱案を見ていただきながらご意見を賜りたい。

(小池教育部長) 議事に入ります。議事の進行は市長にお願いします。

(磯田市長) それでは、次期教育大綱について事務局から説明をお願いします。

(小池教育部長) (資料に基づき説明)

【基本理念】

(磯田市長) 基本理念について、何かご意見ありますか。前回の総合教育会議での意見を受けて、自分の幸せだけでなく、社会の幸せを考えていくような子どもになってほしい、そういう思いを趣旨に書き込んだ。

(荒木委員) 趣旨に子どもたちの中にある「良さ」とあるが、「良さ」を平仮名の「よさ」にすると意味合いが広がる。漢字だと善悪が見えてしまうが、平仮名だと善悪の概念がなくなり、広がった「よさ」に捉えることができる。

(磯田市長) 漢字を使うとある程度の価値観が入り、平仮名を使うとそれが少し広がるということか。

(荒木委員) 教育界では「良さ」とか「個性」という言葉を使うが、この言葉は社会性を伴う。ここで言う「良さ」は社会性のある「良さ」であると私は捉えている。その人がいいと思っても、社会性のない良さであれば、本当の良さとは認められな

い。次に、「他人の幸せも考えて、世のため人のために行動できる」についてだが、文科省が出している学習指導要領の方針の中に「最適解」「納得解」という言葉がある。「解」には解答とかいろんな意味があるが、みんなでよりよい「解」を目指していこうということである。「納得解」は自分だけではなく、他の人も納得できなかったらそれは本当の「解」ではないということだ。その背景には、社会の幸せが見られるからこの言葉が使われている。そういう意味では、私はより平易でかつ心に響く表現になっていると思う。

(青柳委員) 最初に大綱を策定する時は、教育委員会全体で一人でも多くの人の意見を、ということで皆さんと会議をした覚えがある。基本理念を決める時に、「良さ」は長所短所の長所の意味合いを込めた表現であったと記憶している。荒木委員がおっしゃったように、平仮名のほうがソフトなイメージがあり、幅広い解釈ができると思う。

(磯田市長) 短所であっても、誰かが評価したものがその人の能力になるかもしれない。少し広げる意味で「良さ」を平仮名表記にする。他にはないか。

(鷲尾委員) 教育の専門家は平仮名でその背景とかメッセージ性が読み取れるが、自分も含めて一般の人は平仮名で書かれていると、漢字で書こうと思ったのが印刷ミスで平仮名になっているのではないかと思ってしまう。あえて平仮名にするのであれば、なぜ平仮名なのかという説明が必要なのではないか。

(磯田市長) 教育大綱を説明する時に、ここで言う「よさ」とはこういうことです、と詳しく説明するのはどうだろうか。

(青柳委員) この大綱での「良さ」は全部平仮名にするのか。基本方針2にもある。

(磯田市長) 基本方針2の「一人ひとりの良さ」の「良さ」を別の言葉で説明すると、どういう言葉になるだろうか。

(斎藤学校支援係長兼指導主事) 可能性と置き換えることができる。

(小岸教育研究室長兼指導主事) 基本理念の「良さ」を「個性」と置き換えることもできる。

(磯田市長) 個性を尊重するならわかるが、個性を引き出すは違和感がある。

(荒木委員) 教育界で使われている言葉を使うと「一人ひとりの個性を磨き、可能性を引き出す」になる。教育界ではその人の個性が「よさ」とであると表現する。

(金澤教育長) 基本方針3に「自らの個性や可能性を伸ばす」という似たような文章がある。今まで出た「よさ」とか「個性」とか、全体として文言を整理する必要がある。「良さ」という部分については、個性も含めて一つの尺度では測れない。

(磯田市長) 教育の中で、悪いものは引っ込めて、良さを伸ばすという考えがあるとすれば、個性をいいものと断言できない部分もあるかもしれない。しかし、そこで可能性を伸ばすということとセットになれば、良いものを大きくしていくという意

思が出てくる。良さという言葉を使わずに可能性という言葉を使えば、あまり違和感がない。例えば、基本理念だと、「一人ひとりの子どもたちの中にある可能性を引き出し」という文章になるし、基本方針2では「一人ひとり可能性を引き出し伸ばす教育」になる。

(鷲尾委員) 言葉の定義が尽くされていないという教育長の話は全く同感である。市長が言われるように可能性に統一したほうがいいのではないか。「よさ」そのものが広すぎて、概念を捉えようとすればするほどわかりづらくなる。キーワードを一つにまとめたほうがいい。

(荒木委員) そういう考え方もあると思うが、教育に携わっている者にとっては、「よさ」という言葉は大事な言葉である。子どもの良さって何だろうと考え、常に探して、それを伸ばし磨いていこうとする。その姿勢がないと本当の教育ができない。周りが認めてくれるから、自分の可能性を感じるができる。一般的には包括したほうがいいというのもわかるが、「よさ」を取ることは精神がなくなってしまうように思う。

(金澤教育長) 「良さ」については、基本方針2の最初の○(まる)にある「個性・特性を大切にし」から考えると、良さを伸ばすのではなく、良さを大切にして可能性を伸ばすということだと思う。個性や良さは私たちがその人を見るときに認めてあげるものの一つである。そのように整理すると、「よさ」を生かしながら伸ばすのは「可能性」、そして、そのベースとして「よさ」や「個性」を尊重することが大事という考えにすると言葉の整理ができる。

(磯田市長) 確かにそのとおりである。他にはないか。

(金澤教育長) 基本方針2の最初の○(丸)は文章はこのままで「良さ」は平仮名の「よさ」に変える。基本方針3の3つ目の○(丸)は「個性や可能性を伸ばす」とあるが、個性を割愛して「可能性を伸ばす」だけでもいいと思う。趣旨も、「一人ひとりのよさを大切に可能性を引き出す」ということになる。例えば、長い文章になるが、「良さを認めながら可能性を引き伸ばす」はどうか。

(磯田市長) 「よさ」も「可能性」もそこには社会的な、先生方の人間力から見た価値判断が入ってくる。それがなかったら教育というものの動機というかモチベーションがなくなるということを荒木委員がおっしゃった。そこに価値判断が加わるということは、むしろ大切な事だということか。

(金澤教育長) そうとおりである。

(磯田市長) 可能性というものも社会で認められて、そして評価され、そういう資質というか能力を可能性と言っているのだろう。

(荒木委員) 個性と言った時にも、社会性を持った良さとして定義している。「個性を磨き、可能性を引き出す」という文言はどうか。基本理念に「一人ひとりの個性が輝

き」とあるので、それを受けると「子どもたちの個性を磨き、可能性を引き出し」という文章になる。

(磯田市長) 子どもたちの中にある個性を磨いて可能性を引き出す、ということか。個性を磨き、可能性を引き出し、という文章にすると並列の表現になってしまい、文章の据わりが悪い。

(荒木委員) 子どもたちの中にあるというよりは、一人ひとりの個性を磨き可能性を引き出す、ということである。

(磯田市長) 「一人ひとりの子どもの個性を磨き、可能性を引き出して、自分の幸せだけでなく、他人の幸せも考えて、世のため人のために行動できる子どもを育てる教育を推進する。」はどうだろうか。

(鷲尾委員) あまりにも文言が盛り込まれすぎて、冗長な文章になっている。二分割できないか。

(金澤教育長) 色々な意見が出ているので、文言の精査が必要である。

(磯田市長) 基本理念の趣旨は、「個性を磨き可能性を引き出す」として、基本理念の中からは「良さ」という言葉を無くすということによろしいか。また、基本方針2は、「一人ひとりの良さを引き出し伸ばす教育」の「良さ」は平仮名の「よさ」にするということでもいいか。

(荒木委員) 基本方針2は、「個性・特性を大切にし」と前に文言があり、「個性」を使っているから、その次は「良さを引き出し」という文章にしたらどうか。

(金澤教育長) ここは「可能性」にした方がいい。

(磯田市長) 基本方針2の「良さ」は「可能性」にした方がいいということか。それでは、基本理念は文言整理し、二文にするのか一文にするのか、そこも含めて検討する。

【基本方針1】

(磯田市長) 基本方針1について、何かご意見はありませんか。

(荒木委員) 基本方針1の「総ぐるみ」と基本方針3の「オール長岡」は同じ意味で使われているのか、それとも違う意味なのか。

(磯田市長) 違う意味で使っている。基本方針1は学校と中心とした地域社会も含めた「総ぐるみ」、家庭ももちろん入る。そして、基本方針3は地域を超えた長岡市全体という意味で「オール長岡」を使っている。「オール長岡」の範囲は基本方針1の「総ぐるみ」より広く、学校外の社会、行政、色々な関係機関が入っている。

(荒木委員) 私もそういう意味で捉えているが似ている言葉がキーワードとして使われているので確認してみた。

(磯田市長) 「連携」より「総ぐるみ」の方が強いニュアンスが出る。

(青柳委員) 私たちはこういう場で話をしているので違った意味で使っていると解釈できるが、学校現場の先生にストレートに伝わるのだろうか。これはこういう意味で使っています、と説明しなければわからないような言葉は良くないと思う。

(大久保委員) 言葉一つにこれだけ皆さんが思いを込めて議論をしているのに保護者に伝わらないのはもったいない。いろんな方がいらっしゃるので、わかりやすく伝わる言葉が大事である。

(磯田市長) それでは、「総ぐるみ」と「オール長岡」の対象となるものを明示し、二つの違いがはっきり分かるように表記を工夫するということでしょうか。他に意見はないか。

(各委員) (意見なし)

【基本方針2】

(磯田市長) 基本方針2について、何かご意見はありませんか。

(金澤教育長) 二つある。一つ目だが、基本方針2の趣旨は乳幼児期から義務教育終了までの一貫した取組についての方針なので、○(丸)の順番が逆の方がいいのではないか。連携と協働が必要だと言った後に、一人ひとりの可能性を引き出すという順番にしたらどうか。二つ目は、「教育支援」という言葉だが、教育支援と言うと、教育を支援する行政の仕事という意味になってしまうが、ここで言いたいのは行政による支援ではない。ここは支援を取って「教育」だけでいいのではないか。

(磯田市長) 他に意見はあるか。

(荒木委員) 教育長が話されたことに尽きる。また、保育要領が変わって3歳児以上の保育は教育と位置付けられたが、現場にはまだ保育と教育は別だという感覚があるのではないか。3歳児以上は教育だという認識を現場にしっかりと根付かせることが大切である。

(磯田市長) それでは、基本方針2は○(丸)の順番を入れ替える、「教育支援」は支援を切って「教育」とする。

【基本方針3】

(磯田市長) 基本方針3について、ご意見はありませんか。先ほど、「オール長岡」の表記をもっとわかりやすく付け加えるとしたがよろしいか。

(各委員) 異議なし。

【基本方針4】

(磯田市長) 基本方針4についてだが、子育て環境を「充実し」だと国語としては限定的になるので、「充実させ」に変更したいと考えている。他にご意見はありませんか。

んか。

(大久保委員) ○(丸)の二つ目の「経済状況」とあるが、「経済」に限定されているように感じる。それ以外でも、貧困だけに統括されているのかと受け取られないか。

(磯田市長) 確かに経済状況だけじゃなくて、ネグレクトなど、いろんな問題を抱えているので「経済」を取るというのでどうか。

(各委員) 異議なし。

【基本方針5】

(磯田市長) 基本方針5について、何かご意見はありませんか。質の高い教育を受けられる教育環境の整備に「ICT環境の整備」と入れることについて、非常に大切なものかどうか、何か大切なものが阻害されていないかなど、皆さんの認識を伺いたい。

(青柳委員) ICT環境が整って、より良い方向に持っていくには、巧みに使いこなせる先生がたくさんいることが絶対条件である。使いこなせる先生がいなければ、いい機械があっても悪用する児童生徒が出てきたりということにつながる。都会の高校では、一人一台の環境が整っている学校もあると聞いている。しかし、高校生ですら、先生方の目を潜り抜けて、違った使い方をしている子もいるため、その管理の方が大変になっているという話を聞く。また、生徒同士のコミュニケーションを失っている場合も見受けられるという声もある。そういう話を聞くと、うまくスタートできるのかなという危惧を私は持っている。

(磯田市長) ICT環境になじんだり、使ったりすることは、必ずしもいいことばかりではないということに危惧しているということですね。それが私が聞いたかったことだ。社会に出ればこれらを駆使しなければならないが、小学生、中学生それぞれの発達段階でICTというものの環境整備が不可欠なのか、有意義なのか、それともアナログ的なものの方がいいのか。皆さんはどのように考えていますか。

(鷲尾委員) 私は、青柳委員と違う考えである。車を運転すれば死亡事故も起こる、火を使えば火事も起こる、はさみを与えれば指を切るし、どんなものにもリスクはある。ICTはリスクに目を向けるのではなく、秘めた可能性に目を向けるべきだ。もちろん現場の教職員の中には使いこなせない方もいるかもしれないが、ICT環境を整備し、使いこなす教員の育成を長岡が全国に先駆けて取り組んでいくんだというメッセージをICT環境の整備という形で発信すべきだと思う。

(小岸教育研究室長兼指導主事) 教育大綱にも書いてあるように、ICTは学びの可能性を広げるものである。文科省の調査結果にもあるが、画面を見ながらたくさんの情報を分析するような力が落ちている。実はICTを使う力が日本は世界に比べ

て劣っていることが原因であるため、子どもたちにICTを使う力を身に付けさせたい。もちろん、力は一気には付かないので小学校から徐々に力を身に付けさせていき、長岡高専や大学と連携しながら、長岡の未来を背負って立つような子どもに育っていくと、それが長岡の発展につながっていくと思う。

(磯田市長) 私も同じ考えであり、来年度からタブレットの導入予算は用意しようと思っている。鷲尾委員はむしろ先駆けてやるべきだという意見ですね。ただし、私も青柳委員と同じで、教育現場にICTが有用なのか、あるいは何か阻害することになるのか危惧するところもある。

(矢野指導主事) 指導主事の立場でいろんな学校を回らせてもらっているが、小学校の中学年は外国語活動にすごく興味を持って取り組んでいる。そんな中で、言いたい事柄を英語の単語で言おうとするが、習っていないから出てこない、先生に聞こうにも一人しかいないから聞けない、ということがある。そういう時に手元に調べられるツールがあり、活用できるようになれば、子どもたちの学習にもプラスになる。使い方にもよると思うが、知りたいことをすぐに調べられるということは、有効である。

(佐々木指導主事) ICTを使って自分で探してきた情報で議論をする、課題を解決するということが授業に求められおり、そこが教育改革の柱の部分だと思う。例えば商店街でこういう問題があり、この問題を解決するためにどんな方法があるかという話し合いをする場合、子どもたちがインターネットで情報を集めて、こんなことやっているまちがあるよとか、いやそれではだめだよとか議論をする時にICTは非常に有効である。質の高い教育と言うのは、単に機械を入れて、機械の操作を教えることではない。質の高い教育を支えるものとしてのICT環境が長岡にありますと打ち出すことは、とてもいいことだと思う。

(青柳委員) 私も一人一台のタブレットには賛成である。佐々木先生がおっしゃったように、タブレットの使い方を学ぶのではなく、タブレットを使って得た情報を学習で使うというのは、その通りだと思う。しかし、現場の先生を育成していく難しさを心配している。ただ扱えばいいというのではない。今の子どもたちは、私たちが子どもだった頃とは全く違う学校生活を送っている。大人より機械のことを習得し、先生よりも先を行っている子どもも増えるかもしれない。その時の対応策をしっかりと考えて進め方を考えていくのが私たちの仕事だと思う。タブレットはもし予算が付くのであれば、是非お願いしたい。

(磯田市長) 基本方針5の本文に「教育環境の整備にタイムリーに取り組む」とあるが、例えばICTの中には電子黒板や電子ノートなど、いろんなものが含まれる可能性もある。アナログ的なものも含めて、教育環境をタイムリーに整備していきたいというのが基方針5の趣旨で、その象徴的なものとして、ICT環境の整備を敢

えてうたっている。私は長岡市の姿勢としてはっきりと示したい。このままの表記で行きたいと思うがよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(磯田市長) 一部積み残しがあるので、もう一度修正したものを第3回総合教育会議で提示したい。他に全体を通して何か意見はありませんか。基本方針の並びはどうか。

(荒木委員) 基本方針1と3は「子どもを育てる」とある。基本方針2、4、5はそのための方策であるため、基本方針の順番を見直したらどうか。

(鷲尾委員) 基本方針1と3は「総ぐるみ」とか「オール長岡」とかいう枠組みを語っている。個別の施策として、基本方針2、4、5が後に連なるのは読みやすいと思った。

(磯田市長) 教育長はどうか。

(金澤教育長) 先に目指す子ども像が来て、次にそのための手段が来るという順番であれば、わかりやすいし、理解しやすい。

(磯田市長) 普通は子育て支援については福祉保健部だとか市長部局で担当しているものだが、長岡市は教育委員会の中に子ども未来部があり、子育て支援を担当している。乳幼児期から一貫して子どもに関することは教育委員会でやっていこうというのが長岡市の特色ある取組だということで、前回の教育大綱では上の方に上がったものだと考えている。しかし、今では長岡市と同じような体制を取っている市も少なくない。

(青柳委員) 市長がおっしゃったように、他市も長岡市のような体制に代えてきている。

(荒木委員) 基本方針3はとても長岡らしい強烈な言葉が並んでいる。これが真ん中に潜っているのはどうだろうか。

(斎藤学校支援係長兼指導主事) 私はこの順番でいいと思う。その理由としては、学校だけが教育ではないということを強く出すメッセージをこの基本方針2で感じたからだ。

(大久保委員) 私も斎藤先生と同じ意見である。子育てをしている人からすると、基本方針3が先に来ると、乳幼児より学校教育に力が入っていると取られてしまうのではないか。乳幼児期から、が先に来た方が子育てに関することも学校教育に関することも両方をやっているというのが伝わると思う。

(磯田市長) 学校現場からすると、1、3、2の順番が良く、親の立場からすると、今の順番がいいということですね。これらの基本方針は基本理念を実行するための手段である。今は手段の順番について議論しているのだが、そこに理念的なものが入ってきているので、色々な考えが出ている。一貫的な教育も大事だというふうに

思えば、2番がこの位置にあってもいいという考えになる。

(鷲尾委員) 基本方針の順番は市長に託したい。

(磯田市長) では、この順番についても、今の議論を踏まえて先ほどの文言の整理と一緒に考えて、第3回総合教育会議で提示したい。他に何かありますか。

(荒木委員) 基本方針5に「可能性を広げるICT環境の整備を図る」とあるが、ICTだけではなく、オープンスペースも重要である。オープンスペースがある学校とない学校では、グループ討議をする時とか、何かを作り出すという時の学習形態がまるで違ってきている。最先端のものを使って教育の充実を図ることだけでなく、オープンスペースも重要視されている。ここには出てこないが、単純に老朽施設の再生というだけではなく、教育環境の整備といったときにはそういうところも非常に重要な要素になっている。それができる環境のある学校が長岡市には少ないというのは寂しい。

(磯田市長) いくつかの学校にはオープンスペースを整備しており、オープンスペースのある学校からは肯定的な評価をいただいている。基本方針5の一番目の○(丸)で「快適な保育・教育施設の整備を図る」とある。快適という言葉がいいのかどうかかわからないがこの中に包含されると考えている。ICTの特出しが少し目立つがあえてイノベーションとかそういうものに対応する能力を与えていきたいという意味表示でICTは特出しさせてもらった。全体としては、教育環境の整備にタイムリーに取り組んでいく、その意思表示をさせてもらっていることを理解してもらいたい。他に意見はありませんか。

(各委員) (なし)

(磯田市長) 本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。次回は最終形を提示し、皆さんのご承認を得るような形でしっかりとまとめていきたいと思う。長時間ありがとうございました。

(小池教育部長) 以上で令和元年度第2回総合教育会議を終了する。